

# 大豆特報第2号

今年は、晴れの日が続かず、ほ場が十分に乾きにくいいため、大豆の播種作業が遅れ気味となっていますが、晴れ間を見て適期内の播種に努めましょう。

また、梅雨入りに備えて、排水対策を徹底するとともに、適期の培土作業や除草作業により、大豆の収量及び品質向上につなげましょう。

## 1. 播種時の留意点

- ・耕起、砕土、整地、播種、作溝の一連の作業はできるだけ好天日にはほ場が乾いた状態で行いましょう。
- ・播種深度は3cm程度とし、深くなりすぎないようにしましょう。
- ・播種時期が6月中旬以降になる場合は、播種量を多めにしましょう（特報第1号を参考にしてください）。

## 2. 培土作業は遅れず実施

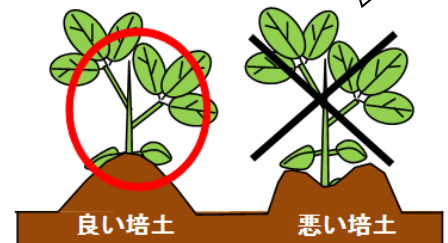
### ▷培土時期の目安と培土の高さ

区分	培土時期	高さ
1回目	本葉2～3葉期 (播種後20～25日)	子葉が埋まる程度
2回目	本葉4～5葉期 (播種後30～35日)	初生葉が埋まる程度

M字型の培土では、株元に水がたまり、湿害や病害が発生しやすい。

### ▷培土作業のポイント

- ・株元までしっかりと土がかかるように行いましょう（右の図を参照）。
- ・培土でできた溝は、額縁排水溝や基幹排水溝に、速やかに連結しましょう。



## 3. 大雨の前後に排水溝を確認

- ・大雨の前後に、排水溝の点検と補修を行い、ほ場に水が溜まったら、速やかに排水しましょう。
- ・集中豪雨などで大豆が冠水または浸水すると、茎疫病等の立枯性病害が発生しやすくなります。排水後速やかに、薬剤で防除しましょう。

### ▷茎疫病の防除薬剤

薬剤名	希釈倍数及び散布量 (10a 当たり)
Z ボルドー粉剤 DL	3kg
フェスティバルC水和剤	600倍液を150～300ℓ

※ 株元に十分薬剤が付着するように散布しましょう。



大雨直後の排水溝

(速やかにほ場外へ排水する)

## 4. 除草剤で雑草防除を徹底

- ・雑草対策は、播種直後の除草剤散布と2回の培土が基本ですが、培土後に雑草が繁茂した場合は、除草剤の散布が効果的です。
- ・大豆の生育状況や発生した雑草の種類を確認し、適切に除草剤を使用しましょう。

対象雑草	薬剤名	10a 当たり散布量	散布上の注意点
イネ科雑草	ナブ乳剤	150～200ml (希釈水量 100～150ℓ)	・イネ科雑草 3～5 葉期までに散布する
	ポルトフロアブル	200～300ml (希釈水量 50～100ℓ)	・イネ科雑草 3～10 葉期までに散布する
イネ科雑草と広葉雑草	バスタ液剤	畦間処理：300～500ml (希釈水量 100～150ℓ)	・強風時の散布は避ける
	ロロックス	大豆 3 葉期以降 畦間・株間処理 100～200g (希釈水量 70～150ℓ)	・イネ科雑草やツユクサには効果が劣る
広葉雑草	大豆バサグラン液剤	大豆 2 葉期～開花前まで 雑草茎葉散布： 100～150ml (希釈水量 100ℓ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・著しい高温時は、薬害が出やすいので、使用を避ける</li> <li>・エノキグサやアサガオ類などには効果が劣る</li> <li>・本剤の使用回数：1 回以内</li> </ul>
		大豆生育期 畦間処理：300～500ml (希釈水量 100ℓ)	

※バスタ液剤、ロロックス、大豆バサグラン液剤を使用する場合は、つり下げノズルを使用するなどして、大豆にかからないよう注意しましょう。

また、近隣の作物にかからないよう注意するとともに、使用基準を厳守しましょう。

## 5. 難防除雑草の発生に注意！

- ・帰化アサガオ類、イヌホオズキ類、ヒユ類などの難防除雑草は繁殖力が強く、畦畔や用水・排水周辺などで年々増加しています。
- ・難防除雑草を見たら、結実前の手取り・刈り払い、または除草剤の散布を行ってください。また刈り取った雑草は放置せず、適切に処分してください。



マルバルコウ



マメアサガオ



イヌホオズキ



イヌビユ